

が多い。途中、良いミズブキがあったので、収穫して、石橋さんのザックにいれる。

沢はいったん広くなるが、その先で再びゴルジュ状となり、15m滝が豪快に落ちている。左岸の搦道を使って下に降りる。

その後は平凡な沢となり、砂防ダムが出てきた。もう林道は近い。林道に出たところで今日の沢登りを終え、みんなの持っているテン場へ急ぐ。

(記・

[タイム] 下降開始(9:10)→林道(11:15)

大沢右俣

1986年7月27日

L

車で大沢出合まで入り、和泉さん達と二俣まで一緒に遡行する。二俣で左俣に入る和泉パーティと別れ、右俣を遡行する。

二俣から先は水がない。砂防ダム3つを越えると、左岸のガレ場から土石が沢に押し出してきている。その先からナメとなり、水量も出てくる。このナメは、沢の最後まで続き、傾斜がきついので、全体が滝といった感じもする。上部はナメ滝としてもきつく、ホールドをさがしながら登る。

ヤブこぎは30分。笹の密生したヤブで、苦勞して尾根上に出る。

(記・

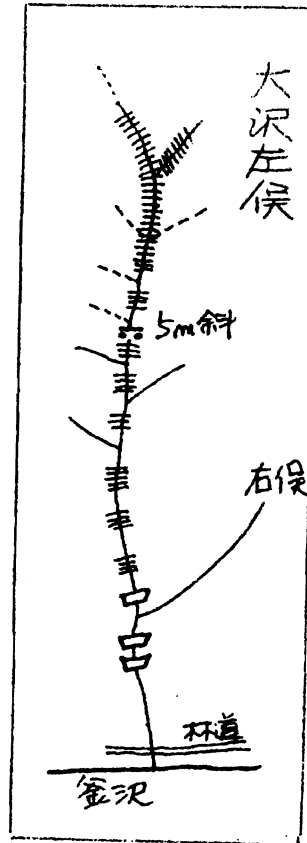
[タイム] 大沢出合(6:50)→二俣(7:00)→遡行終了(8:20)→尾根(8:50)

大沢左俣

1986年7月27日

L

夏合宿2日目に、私達は釜沢支流の大沢左俣に入る。釜沢にそって奥に延びている林道を、大沢右俣に入る穴戸君たちのパーティと一緒に出合まで車で入る。



身支度を整えて、6時50分遡行開始。二俣までは砂防ダム2つを越えて、10分
足らずで到着する。ここで右俣のパーティと別れて左俣に入る。

左俣に入ると、すぐ砂防ダムとなり、それを乗
り越えると、ナメが所々出てくるようになる。
全体的にはさして変化もなく、滝は途中5m程の
ナメ状のものが1つあるだけ。それもフリクショ
ンをきかして、なんなく通過できる。

上流はナメが続き、勾配を増してゆく。源頭部
のヤブは、それほど濃くない。15分程ヤブをこい
で尾根に出る。

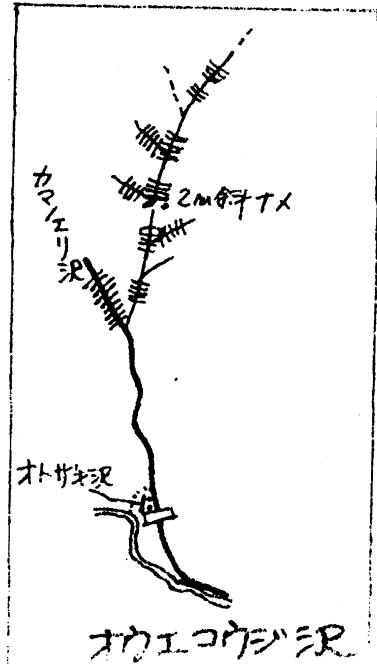
(記・

[タイム] 大沢出合(6:50)→二俣(7:00)→沢終了
(7:50)→稜線(8:05)

オウエコウジ沢

1986年7月27日

L



大沢左俣の遡行終了後、オウエコウジ沢の下降にかかる。尾根の南側は、北側
と異なって、ヤブが非常に濃くなっている。西側にトラバースするような感じで、
オウエコウジ沢の源頭に降り立つ。

沢は断続的にナメが現われるが、初めのうちはヤブがうるさく、歩きづらい。
途中、何本かの枝沢が入るが、枝沢もすべてナメとなっている。

2m程のナメ状の小滝を過ぎ、枝沢を2本合わせると、カマノエリ沢の出合に
着く。水量はカマノエリ沢の方が圧倒的に多い。オウエコウジ沢は多少伏流ぎみ
に合流しているので、登ってきた時には、注意しないと出合を見過ごしそうな感
じである。

カマノエリ沢を15分程下ると、大きな砂防ダムに行く手を阻まれる。乗り越え
るには時間がかかりそうなので、オトザキ沢にかかる8mの滝の左岸を搦き、砂
防ダムわきの林道に出る。

(記・

[タイム] 下降開始(8:10)→沢(8:25)→カマノエリ沢出合(8:55)→オトザキ沢出
合(9:10)→林道(9:15)